

LETTER FROM COPENHAGEN
コペンハーゲン通信 PART VII
2



海を突き進むグリーンランドの犬ぞり
(デンマーク気象協会のステファン・オールセン氏撮影)



デンマーク王国 DATA

人口582万人、面積4.3万平方キロ(九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に外向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



小林 功人

在デンマーク日本大使館二等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

気候変動対策で野心的ターゲット

北欧の国、デンマークの冬というと、やはり寒いイメージがあるせいか、この冬、日本からのデンマークへの出張者の中には「意外と寒くないね」と、少しがっかりされる方もいらっしゃるかもしれません。カリブ海から流れてくる暖流「メキシコ湾流」の影響で、緯度がモスクワと同じである割には比較的温暖な気候ではあるのですが、特に今年は暖冬傾向で、最低気温がマイナスになる日はほとんどないほどです。私の知り合いのデンマーク人は、農家を営んでいる叔父さんが「今年の冬は降水量も多く、ぬかるんだ畑での作業は効率が悪くて困っている。温暖化の影響は実生活にも影響を与えている」と嘆いていたと言っていました。また、デンマークの自治領であるグリーンランドで氷が急速に溶けていることを象徴する、海を突き進む犬ぞりの写真がSNSを通じて世界的に拡散されました。

北欧の気候変動への関心の高さは、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんに代表されますが、デンマークは国を挙げて気候変動対策に取り組んでいます。2019年6月の総選挙の際の世論調査において、最も関心のある争点が「気候変動」でした。その選挙の結果誕生したメッテ・フレデリクセン新政権は、2030年までに温室効果ガスを1990年比で70%削減するという極めて野心的

なターゲットを設定しました。EUの40%、日本の18%と比べると、この数字の大きさをご理解いただけたらと思います。

一方、各省や企業の幹部に目標達成の見通しを尋ねると、「どうやってこの目標を達成すればいいかわからない。技術革新や新たな産業が生まれることで達成できるかもしれない」と素直なコメントが返ってきます。野心的な目標は、達成できなければ批判を生むリスクを内在していますが、過剰な懸念を示さず楽観的なことに驚かされます。

この政治のイニシアチブによって、再生可能エネルギー、グリーンテックなどの関連産業が今後さらに競争力をつけてくるのではないかと予想しています。今回テーマとして挙げた気候変動対策に限らず、デンマークでは、政治家が大胆な目標な掲げ、行政が市民を巻き込みながら規制やアセスメント制度を整備し、企業がポテンシャルが期待される市場へ参入し自由競争環境下でコストダウンを図る、というそれぞれのアクターの役割の有機的な結びつきが、経済成長の良いサイクルを生んでいくように思います。



各産業を代表する企業のCEOから成る気候変動パートナーシップのメンバー(デンマーク首相府HPより)